

調査経過,

9 月 5 日、信大山地水環境教育研究センター、宮原助教授、助手による池の現地調査、サン
プル採取、流量測定など *その後、同研究室からの報告メール 3 回*

9 月 24 日、定成氏の協力を得、ボートによる水深、大きさなどの調査、

10 月 9 日、11 月 13 日、池の形、大きさ確認、魚捕獲試み (失敗)

11 月 12 日、宮原研究室を訪ね、これまで頂いた 3 回の報告をもとに総合的な意見聴取

池の水質は流量の多い流入 2 (1,1L/s) に大きく影響されているが (流入 1 の約 5 倍) 水の透明度は高く、窒素や磷などの化学成分少なく問題は無さそう。池の茶濁原因は渦鞭毛藻 (ツノモ) の増殖による。本種は各地の池に普遍的に見られるが、体長 0, 2 ミリほどで大きな角と鞭毛を持ち、比較的大型なのでミジンコなどの動物プランクトンの捕食にも向かないようで、濁りのため水草の生育も難しいのではないかとの意見。ph が 9,3 と高いのは植物性プランクトンによる光合性のため水中の炭酸が減少したためと考えられる (自然現象)、本種は時に淡水赤潮の誘引生物のひとつとなる、しかし基本的なツノモの過増殖原因は判っていない。池底をじよれんでさらってみたが落ち葉の下は黒いヘドロ状に土が 3~5 cm ほど、3 回さらったが水生昆虫などの生き物は全く見られなかった。水中の化学物質は少ないので栄養塩量の制御は不必要、池の容積、流入量、流出量からの水の循環を明らかにする必要があるそう。以上から水の濁りを無くし水生生物や水草などの豊かな池への改善法は未だ不明です。尚調査中に体長 6 センチほどの魚 2 匹ミズカマキリ 1 匹を観察しました。

